

令和4年度事業計画の件

(令和4年3月1日から令和5年2月28日まで)

＜令和4年度の活動指針＞

- ① 将来構想委員会の提言「持続可能で活発な日本油化学会への脱皮」の実現を目指す。そしてオレオサイエンスを通してコロナ禍の時代を良い方向に導くことができるよう学会としての使命を果たす。
- ② 創立70周年記念事業として今年度開催する第2回世界オレオサイエンス会議(The 2nd World Congress on Oleo Science, WCOS 2022)は、コロナ感染状況を考慮しVirtual-Onlyで開催する。そして、Virtual会議を盛会とするために、世界で活躍中の科学者・技術者が登壇し、近未来の技術予測の場となるよう完成度より斬新性を重視した「トップカンファレンス」志向の国際会議を目指す。委員長は朝倉 浩一 現委員長が務める。なお予定していた釧路での開催計画は、創立75周年記念事業として2027年に延期して実施する。
- ③ 教育面では、若手会員の能力向上と会員増強を目指して従来から行っているフレッシュマンセミナー、実践講座、試験法セミナー、サマースクールなどのセミナーを開催する。前年度好評であったVirtual開催の参加形式に加えてin-person参加の機会も提供して利用者に役立つより魅力的で受講しやすい内容とする。さらに、WCOS 2022では優れた発表を表彰して学生や若手研究者の育成を図る。
- ④ オレオサイエンスの深耕と普及に関する事業は、これを担う専門部会と支部でコロナ禍下でも講演等の事業活動ができるよう、昨年整備したVirtualシステムを本部から提供する。
- ⑤ 学術論文誌Journal of Oleo Science (JOS)は、一流のオープンアクセスジャーナルを扱うDictionary of Open Access journal(DOAJ)に掲載されたことを弾みに投稿数と論文の質向上に務めて世界一流のジャーナルを目指す。また本年開催するWCOS 2022における選抜講演等の選りすぐりの特別講演を特集号として発刊し、更に今後も質の高い研究論文が集まるように布石を打つ。会員誌「オレオサイエンス」は、会員に役立つ学会情報、特にWCOSの話題づくりなどの提供を目的に、会員へはもちろん、国内外への敏速な情報発信に努める。
- ⑥ 社会貢献の一環として、一般財団法人油脂工業会館との共催で実施している市民講座(地区講演会)は、本年度も3支部が中心となりVirtual開催も併用して地方都市でのオレオサイエンス普及に努める。

1.会務

1.1 総会

代議員を社員とする第68回定時総会を令和4年4月20日(水)に油脂工業会館を開催基地としてVirtual会議システムを併用して開催する。令和3年度事業報告(報告事項)、令和3年度決算案、永年会員の長年の貢献に感謝し会費の徴収を緩和することの審議、令和4年度の役員を選任、を行う。定時総会終了後、総会報告会を開催し、定時総会および新執行体制を報告する。さらに令和3年度日本油化学会の学会賞、進歩賞、ならびに功績賞および女性科学者奨励賞の表彰式、特別講演会などを開催してコロナ禍で薄れつつある会員間の親睦を深める。

1.2 理事会

令和3年度の理事会の開催予定は5回。令和3年度の資金運用方針、第60回年会とWCOS2022の開催、令和2年度事業報告案および決算案を審議決定する。また令和4年度の事業計画および予算を策定し、令和3年度諸事業計画の企画・実行、諸規則類の整備・改定等、重要案件を審議決定する。

1.3 運営委員会

運営委員会の開催予定6回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の持続的な財務基盤の構築および活動の活発化につながる議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

本会の業務を担当する総務、財務、国際交流、オレオサイエンス編集、JOS編集の各委員会は、それぞれ公益社団法人としての内部体制と諸規則類の整備、収支バランスを踏まえた学会活動の財務的支援、海外の学術団体および工業会などとの共同活動推進、アジア中東地域でのNo.1学術誌を目指した国際情報発信の強化を継続して進める。また、企画・部会統括委員会は本部・支部・各専門部会が企画する講演会やセミナー等の事業の円滑な実施に向け、事業の内容やスケジュールの調整ならびに相互情報交換を進める。

2 事業計画

2.1 (公1) 研究成果の公開、人材教育、研究の奨励及び業績の表彰を行う事業

2.1.1 研究成果の公開

(1)日本油化学会創立70周年記念事業 第2回世界オレオサイエンス国際会議 WCOS 2022 の開催

WCOS 2022は、朝倉 浩一 委員長(慶應義塾大学)のもと、Virtual-Only Eventとして8月23日(火)~9月3日(土)に開催する。世界で活躍中の科学者・技術者が登壇し、近未来の技術予測が討論できる完成度より斬新性を重視した「トップカンファレンス」志向の国際会議の実現を目指す。そのために、1)国際油脂研究学会 ISF、アメリカ油化学会 AOCs と協力した特別講演、2)世界に公募して斬新な研究成果を選抜する Select Lectures、3)日本油化学会とJOSの受賞者による講演をライブ配信して科学者と技術者が討論する場を提供する。さらに時差のある日亜米欧で成果を共有できるよう、講演録画を即日オンデマンド配信する。また一般発表は、優れた発表を表彰して研究活動を奨励する。

(2)論文誌・会員誌の発行

JOS編集委員会は、論文誌「Journal of Oleo Science」を12号発行する。一流のオープンアクセス誌のみを扱うDOAJにJOSが掲載されたことを弾みとし、会員ならびに国内外研究者からの「JOS」への積極的な投稿が増えるよう、早期公開制度や関連研究者への働きかけなどを継続する。また、オンライン投稿審査システムを基盤に、査読者選定システムも活用して、外国人を増やすなど査読者の増加・多様化をはかる。そして、アジア~中東地区でNo.1学術誌の地位を確立することを目標に、WCOS 2022の選抜講演などの優れた研究成果も特集号として増刊できる審査体制を整えてImpact Factorの向上や投稿数増加に努める。また、

剽窃チェックシステムや英文校閲を活用し、本誌の品格維持／向上にも努める。さらに、特に内外の若手研究者の交流・ネットワーク形成等の教育的支援を通し、将来的な JOS の「国際情報発信強化」に繋げる。

会員誌「オレオサイエンス」を 12 号発行する。オレオサイエンス編集委員会は、総説約 35 件からなる特集企画、若手研究者紹介、油脂関連情報、抄録、会務記事など有益情報の早期発信を推進するとともに、WCOS の話題づくり、学術専門委員会との共同企画の Topics in Oleo Science の継続、会員が参画する紙面の充実など、さらに有用かつ魅力ある会誌づくりに努める。なお、デジタルアーカイブの WEB 公開／環境整備を継続する。

2.1.2 人材教育

昨年 virtual 開催して好評であったオレオサイエンスの基礎講座フレッシュマンセミナー「油脂と脂質」と「界面と界面活性剤」、中堅研究者のための界面実践講座、油脂実践講座、若手研究者・技術者の活発な交流を目的に開催している「若手の会サマースクール」は、可能な範囲で in-person 参加等の直接交流が可能な機会を提供して満足度を高める。

上記のフレッシュマンセミナー等の本部事業は年 4 回の企画・部会統括委員会の開催により企画、運営を行う。また、各支部、専門部会の事業において、それぞれのリーダーのもと、独自に運営を行うが、企画・部会統括委員長が年 2 回開催する全体会議でスケジュール調整、相互の情報交換などを行う。

2.1.3 研究の奨励・業績の表彰

油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰する。本科学分野で著しい成果を上げた研究者へは日本油化学会 学会賞を、そして本工業分野で著しい成果をあげた者へは日本油化学会 工業技術者賞を授与する。若手研究者には論文業績に対して日本油化学会進歩賞を、そして WCOS 2022 では優れた研究発表に Out Standing Award を贈り讃えます。その中で特に国際発信力に優れた研究発表には、英国王立化学会 (RSC: Royal Society of Chemistry) の支援を頂き共同で RSC Advances 賞を贈る。

また JOS とオレオサイエンスの優れた論文著者に贈るエディター賞、インパクト賞、ベストオナー賞、オレオサイエンス賞と、学会への功績者の表彰についても継続する。

2.2 (公 2) 評価・試験法の標準化と普及を行う事業

品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11 月に第 22 回基準油脂分析試験法セミナーを Virtual と in-Person との同時開催で、日本油化学会が制定した試験法の標準化と普及を図る。

2.3 (公 3) 地域における学術の振興と普及を行う事業

各支部による講演会・セミナー等も、Virtual と in-Person の同時を視野に開催する。また支部活動の一環である(一財)油脂工業会館共催の地区講演会・セミナーを、関東支部は 10 月に新潟市で、東海支部は 11 月に浜松市で、関西支部は 6 月と 11 月(場所検討中)で、それぞれ開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に行い、地域における学術振興・普及に努める。

2.4 (公 4) 学術専門分野の活性化事業

専門部会活動については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会、オレオナノサイエンス部会およびマスターズクラブの体制で展開する。日本油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追究と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー・講習会等の充実と定着化を図る。マスターズクラブは学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開する。

以上

(452回 理事会決議)